

有棘細胞癌（ゆうきょくさいぼうがん）

有棘細胞癌について

皮膚の有棘細胞癌は、表皮にある重層扁平上皮から生じた扁平上皮癌です。

日本においては基底細胞癌に次いで多い皮膚癌であり、10万人あたり約2.5人に生じるとされています。また、上皮内扁平上皮癌である、日光角化症とBowen病を含めると、皮膚癌の中で最多です。

発生原因としては、紫外線（特に長期間の日光曝露）、ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）感染、化学物質（ヒ素など）、放射線被曝、熱傷や外傷による癒痕、慢性炎症などが知られています。

症状について

有棘細胞癌は、一般的には紅色調～通常皮膚色の、表面に角質を付着した軽度隆起するしこりになります。しばしば表面がびらん・潰瘍化します。進行するとリンパ節や他の内臓などに転移をすることもあります。

診断について

診断は主に視触診・ダーモスコピー検査を行い、皮膚の生検で確定診断します。また、腫瘍の局所評価や転移の有無を調べるために表在超音波、CT、PET-CT、MRIなどの画像検査を行うことがあります。

治療について

治療の第一選択は手術で、十分な余裕を持って周囲の正常組織ごと切除します。所属リンパ節転移がある場合、リンパ節群を一塊に切除する手術（リンパ節郭清術）を行うことがあります。

手術が困難な場合や手術後の再発リスクが高い場合には、放射線療法を行うことがあります。

遠隔転移があったり、切除が出来ない場合には抗がん剤による薬物療法を行うことがあります。ニボルマブによる免疫療法や、シスプラチンなどの白金製剤と呼ばれる抗がん剤が使用されることがあります。

また、表皮内癌（日光角化症）の場合、イミキモドクリームなどの外用治療が選択される場合があります。

執筆者

- 氏名： 森 章一郎（もり しょういちろう）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科

- 氏名： 奥村 真央（おくむら まお）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科